

ひとり、會場大倉山にては友愛會柴田富太郎氏其他待ち受け、午後零時二十分三菱内燃機職工の先頭來場續いて造船部、川崎分工場鑄鋼部の行列來り午後一時全部到着するも、各委員は運動場中央に在る足臺に登り、先づ川崎分工場の安部委員開會の辭、川崎造船所造機部の石橋委員の演説に次で友愛會神戸聯合會主事柴田富太郎氏は、川崎、三菱對友愛會の交渉經過を報告したる後一轉して、三菱及川崎の労働者が、労働者の集團としての友愛會神戸聯合會所屬其他の在神労働組合と爭議發生以來相寄り相補けて資本家に當れること、組合聯合團の組合確認運動に於ける活動と資本家の之に對する一致的拒絶の経緯を説き去り、説き來りて、兩爭議團に於ける幹部は連日協議の結果、兩爭議團を合併し、労働爭議團と命名し、鶴翼の陣を張つて、飽まで戦つて飽運勝たざるべからず。今回の神戸爭議の勝敗は全國の労働者の浮沈にかゝる重大問題なりと説き更に賀川、久留、柴田(富、堀、行政、須々木、野倉の七氏を全權委員として川崎及三菱に對し交渉を開始する旨の報告演説をなし衆之に和して労働爭議團の方歳を三唱し解散せり。かくて神戸爭議の陣容成り、賀川氏以下の參謀本部員亦確定したるなり。全權委員としての七氏が神戸友愛會の最高幹部なるは茲に贅せざるべし。

然るに右の全労働者未だ大倉山を下り終へざる午後二時十分、川崎仕上工約五百名到着、又亦演説をなし前同様なる柴田委員の報告あり、解散する間もなく午後三時川崎造船所造機工場向上會、誠心會其他各部の職工約二千名到着職工中の各委員登壇演説中なる午後三時十分一足遅れの造船部二部隊約千名到着、石橋、前出その他諸氏の演説後前記と同じく柴田委員の報告演説あり、三時四十五分万歳を三唱して解散、解散後川崎造船職工千二百名に依つて新に組織されし向上會委員の打合あり。午後六時過ぎに至り、工場内にて正午來示威運動を行へる三菱造船造機工約三千名が退出の四時に門前へ集合行列を作りて押出し、各新聞社前を経て會場に到着し、又亦演説に氣勢をあげたる後萬歳を三唱して解散したるが、尙一旦解散して大倉山を下りたる三菱内燃機及川崎造船、鑄鋼その他各部の職工團は更に行列を作り葺合の神戸製鋼所を訪問し同所門前にて大喊聲をあげたり此の日大倉山に會合したる労働者は實に一萬六千の多數に上り、吉田新田及會下山に會合せる者を合計すれば約三萬と註せらる。

八、爭議と賀川豊彦氏

かくて神戸労働爭議に於ける最高統制權は完全に友愛會神戸聯合會の手に與へられたり。神戸友愛會の實力と爭議團の全勢力とを對比し來るとき何人も先づ其の奇蹟的現象を考ふるなるべし。顧て大正九年四月以降の全友愛會に於てける入會者を調査するに、四月三五〇、五月六五〇、六月二三八、七月八〇一、九月二五〇、十一月九九、十一月五〇四、十二月五〇四、大正十年一月一〇六、二月一四〇、三月二〇〇、四月五〇〇、五月四九九、六月五〇一、七月五一〇、八月四、四八〇、九月四、〇